

# FAA事業用 CFIコース

## 1年次

11-5月  
海外提携フライトスクールが実施する英会話能力確認試験合格後、渡米までの期間、FAA 自家用ライセンス取得のための学科試験対策や英語学習を各自で実施  
(訓練コースごとに特別授業等を実施する場合があります)

## 2年次

6-8月  
先進工学部  
ハイブリッド留学\*

## 3年次

## 4年次

3月  
学士号取得

## 卒業後

### 本コース申込に際しての重要注意事項 (必要条件)

- 訓練時間・期間は天候および個人の技量等により変動する場合があります。
- また、記載の飛行訓練時間は、あくまで平均的な訓練時間です。訓練時間は修得状況により個人差があり、追加費用が発生する場合があります。
- 留学時の米国や米国連邦航空局、提携フライトスクールおよび海外情勢等の事情により実施ができない場合があります。
- 渡航に際し、ビザの取得ができない場合は本コースで訓練を受けることができません。
- 渡航の際に必要なビザ申請において、操縦訓練費用(総額)や滞在期間中に必要な生活費など、米国滞在中のあらゆる費用を賄う十分な資金があることを証明する預金残高証明書の提出が必要です。
- 渡航(米国内での操縦訓練)に際し、FAA Medical Certificate (3rd class以上)の取得が必要です。診断書の取得ができない場合は本コースで訓練を受けることができません。
- 渡航(米国内での操縦訓練)に際し、Flight Training Security Program (FTSP) にフライトトレーニングの許可申請が必要です。飛行許可が下りない場合は本コースで訓練を受けることができません。
- 海外提携のフライトスクール入校に際し、米国提携フライトスクールによる英会話能力確認試験に合格し、フライトスクールの入学手続開始時(1年次12月頃)までに、TOEIC® Listening & Reading Test 405点以上を取得すること(証明書提出)が必要です。また、資格取得のための飛行訓練および各種試験(筆記、口述、実技、無線等)はすべて英語で行われ、かつ、渡航前の事前教育も英語が主となるなど、相当の英語力が求められるため、渡航前より推奨英語能力レベル★を設定しています。
- 記載の飛行訓練内容、飛行訓練時間・期間および訓練費は、2026年5月1日時点のものです。今後、諸状況により予告なしに変更、追加することがあります。
- その他、渡航先の入国条件がクリアにならない場合には、本コースは継続できません。

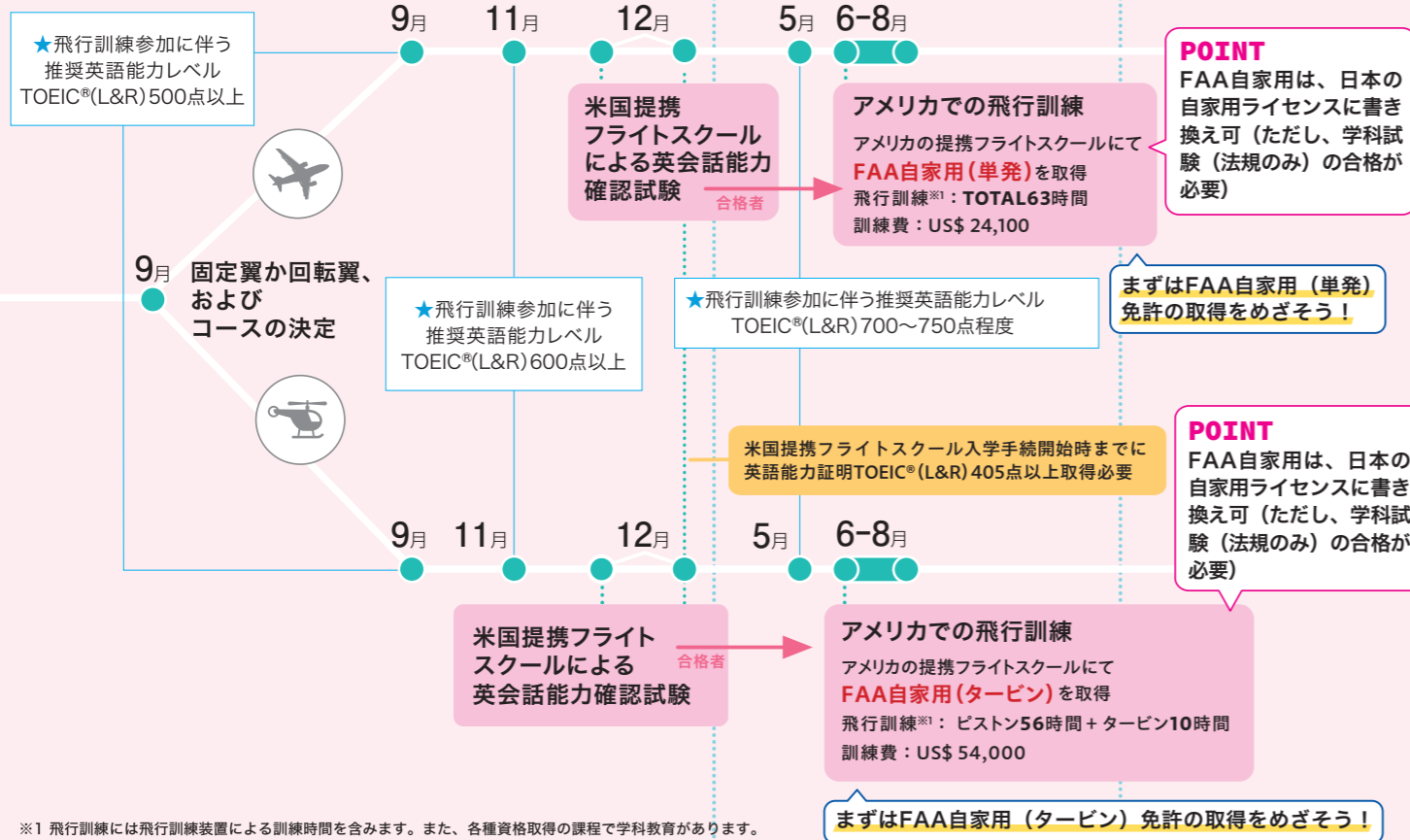
### 取得できる免許・資格



- FAAおよびJCAB自家用資格
- FAA計器飛行証明・多発限定変更
- FAA事業用・飛行教官(CFI)資格



- FAAおよびJCAB自家用タービン資格
- FAA事業用・飛行教官(CFI)タービン資格



POINT  
卒業後、何年間かお金を貯めてからでも可能! 経済状況にあわせて段階的に取得もできます

POINT  
卒業後、何年間かお金を貯めてからでも可能! 経済状況にあわせて段階的に取得もできます

アメリカでの飛行訓練  
アメリカの提携フライトスクールにて  
**FAA多発限定変更+FAA計器飛行+FAA事業用+フライトインストラクター(FAA CFI)**を取得  
飛行訓練<sup>※1</sup>: TOTAL250時間~+アメリカでの就職活動  
※訓練内容の詳細はお問合せください  
訓練費: US\$ 115,300 ~ (訓練費は滞在日数等により変動します)

アメリカでの飛行訓練  
アメリカの提携フライトスクールにて  
**FAA事業用+フライトインストラクター(FAA CFI)**を取得  
飛行訓練<sup>※1</sup>: TOTAL144時間~+アメリカでの就職活動  
※訓練内容の詳細はお問合せください  
訓練費: US\$ 70,400~ (訓練費は滞在日数等により変動します)

## 全コース共通 機械理工学科カリキュラム

航空理工学専攻の学生がめざすのは工学の知識と飛行操縦スキルを併せ持つ「エンジニア・パイロット\*」。  
機械理工学科のカリキュラムを履修しながら、ハイブリッド留学\*期間や長期休暇中に飛行操縦訓練を積みみます。  
そのため、卒業後はパイロットの道だけでなく、就職や大学院進学といった進路選択も可能です。

## 社会が抱える課題をグローバルな視点で捉え解決する

### 学びの特色

- 産学連携プログラムを通して実践的課題解決能力を修得する
- 数学、物理などの基礎科目と機械系専門科目を学び社会で役に立つ応用力を身につける
- 技術英語を修得し、海外研修で海外の学生とともにプロジェクトを経験する

### 身につく力

- 自ら課題を発見して解決する能力が付き、社会に求められる即戦力となる
- 工学分野の深い知識と応用力を備えた技術リーダーをめざせる
- 国際的なプロジェクトに携わるなど、世界で活躍するエンジニア・研究者になる

### 4年間の流れ

## 1年次~2年次(前期)

工学と英語の基礎とともに、さまざまな自然科学の知識を身につける

- ・機械工学に必須の力学を修得「工業力学 I~IV」
- ・英語で考えて話せることをめざす「工学基礎英語 I・II」
- ・多彩な教員から専門科目の入り口を学ぶ「機械理工学概論」



## 2年次(後期)~3年次

機械工学の専門性を深めながら産学連携の実践的なプロジェクトに取り組む

- ・課題解決プロセスをチームで体験「機械理工演習」
- ・実社会の課題解決にチームで臨む「創造工学セミナーIA・IB」
- ・コンピュータを使い図面を作成する技術を修得「CAD I・II」

## 4年次

これまで培った能力を発揮し、プロジェクトや卒論の成果をまとめる

- 【研究領域のキーワード】  
燃料電池/ニューラルネットワーク/マイクロ加工/コンピュータサイエンス/航空宇宙/航空振動/新材料/音場制御/医療機器/生産技術/センサー・フュージョン

